

1 「コロナ禍における国際学部の取り組み」

学務委員会の学生支援の概要

国際学部学務委員長 重田康博

前期（4月から8月）

2020年世界に広がる新型コロナ感染禍の危機について、宇都宮大学国際学部がどのような取り組みを行ったのかを記録に残しておくことは非常に必要であることであると認識し、学務委員会からその取り組み（重田学務委員長）から説明する。

2020年4月7日日本政府は、コロナウイルス感染拡大の影響で7都道府県を対象に「緊急事態宣言」を発令し、4月16日には対象地域を全都道府県に拡大し、感染の拡大が特に深刻な13都道府県を「特定警戒都道府県」に指定した。

これに対して、4月9日宇都宮大学は、対応方針として「ステージ2」（制限・小）を、さらに4月20日に「ステージ3」（制限・中）の指令を打ち出した。これによって、大学はメディア利用の講義・演習（対面授業の禁止）、部局長の許可を得た場合のみ入構可（学生の入構禁止）などに踏み切り、本学は前代未聞の事態を迎えるに至った。その後、本学としては、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急学生支援について、一般学生向けの「飯村チャレンジ緊急奨学金」及び「飯塚緊急奨学金」、留学生向けに「増山緊急奨学金」、ノートPC貸与などの支援を行い、宇都宮大学3C基金内に「緊急学生支援基金」を創設した。その他、全学の学生・教員のために、C-learningシステムの導入、全学部の1年生の支援を対象とするピアサポート制度の導入などを行った。

授業は4月20日からメディア授業の導入が決まり、国際学部でも教員によるメディア（オンライン）授業の準備のために、国際学部の全教

員のためのZoomやC-learningの登録を行ったりした。筆者も初めて本格的にZoomやC-learningを扱うので、その準備で体が硬直したのを覚えている。国際学部学務委員会では、4月に入り1年生のガイダンスは中止となり、ガイダンス用資料を配布し、個別相談を行った。4年生にはガイダンスをZoomで行った。何といたっても学部の学生に対する支援をどのようにするのが重要であった。各学年の指導教員に対して、学生の相談サポートをお願いした。特に、新入生が入学早々いきなりオンライン授業を含めた学生生活だったので、1年生の指導教員が相談サポートなどで対応した。

国際学部学務委員会は、全学生の状況確認を実施することとし、5月の教授会で1. 2. 3年生は指導教員から、4年生はゼミ指導教員から学生の状況確認実施について依頼した。特に、連絡の取れない学生については、学務委員会に報告を依頼した。また、全学の学生支援ピアサポーター制度が開始されると、学務委員会では国際学部1年生に対する2年生以上の学生のサポート体制の準備を行った。同時にオンライン授業が開始されると、5月に学部の全学生に対して「学生生活アンケート調査」を実施し、その結果学部の中にも経済的、精神的にサポートが必要な困窮学生がいること、またアンケートの回答を得られなかった学生もいることがわかった。学務委員会は、学生がどのような悩みを抱えているか、またネットワーク環境が不十分な学生に対して、PCの貸出、アルバイトの紹介、携帯電話会社が無料で通信量拡大サービスを行う情報などを提供した。さらに学

生支援団体connectによる1年生支援も行われるようになった。その他、国際学部同窓会が募金を行い、全学の奨学金を受け取れなかった学生を対象に支援を行った。

後期（9月から1月）

コロナ感染拡大は20年夏以降も続いた。国際学部は、ガイダンスを9月の後期の授業前にも1年生から4年生の学生を対象にZoomによるオンライン形式で行った。特に1年生のガイダンスを対面形式で行うのか、オンライン形式で行うのかについて、随分と学部の教員間で議論があったが、結局オンライン形式で行うことになった。本学は11月9日「ステージ2A」の対応方針を出し、授業は対面及びオンライン授業の両方の可能性を探った。国際学部でも演習科目や一部専門科目の授業を対面とオンラインの両方の授業で行うようになった。その他、学生支援団体connectによる支援の他、11月以降から全学レベルでのピアサポート制度を継続する

ことが決まり、国際学部学務委員会でも学生募集などの支援を行い、19のグループの内11のグループの学生支援を行っている。

しかし、2021年1月8日新型コロナウイルス感染症急増に伴い、日本政府は2度目の1都3県に緊急事態宣言を出し、栃木県も緊急事態宣言を発令した。その後、宇都宮大学は1月13日再び「ステージ3」の指令を出し、メディア授業を実施し、特別な理由がない限り学生の入構が許可されないことになった。これに伴い、1月20日、国際学部学務委員会では「学生生活アンケート」を再度行い、2月1日終了し、181名の回答があった。

以上の通り、2020年度のコロナウイルス感染症の危機を忘れないためにも、以下に「COVID19に関する学務委員会の対応記録」を添付するので、2020年4月から5月までの国際学部学務委員会の対応として参考にして欲しい。

COVID-19 に関する学務委員会の対応記録

1 記録の目的

国際学部学務委員会では、COVID-19の感染拡大に伴って発生した学務上の問題に対応するために、2020年4月以降下記の対応を実施してきた。緊急事態を受けて対応内容の記録を残することで、今後の委員会業務の実施と改善のための資料を作成することとした。

2 5月22日時点の分析

成果：早期に全学生を対象としたウェブアンケートを実施したことで、学生たちのメディア講義への対応状況や経済状況、精神的なケア等に関わる支援ニーズを確認し、4月からの個別対応開始を実現することができた。また学外団体、支援活動参加を希望する学生団体との連携によって、多様な支援ニーズにこたえる体制を整えつつある。

課題：ウェブアンケートやC-learningサイトでのアンケートに回答していない学生たちの状況の把握、情報伝達については課題が残る。また留学生（研究生を含む）への支援体制に関して、全学では支援額が日本人学生の半額であること、または研究生が対象となっていないこと、政府支援策では成績上位者に対象が限られていることなどを踏まえると、留学生への支援を検討する必要がある。

年月日	対応内容	担当者・関係者
2020年 4月2日	「宇都宮大学国際学部学生のネット環境・意識調査」Webアンケート（アンケート①） 方法：サーベイモンキーを使って実施 対象：国際学部全学生・修士課程大学院生 回答者数：358名	高橋・松尾・重田・清水
4月5日	新入生ガイダンス中止を受けて、ガイダンス用配布資料の作成	重田・高橋・松金
4月20日	大学の対応方針ステージ3へ	
4月21日	定例学務委員会開催 学部備品PCの貸出等の学部独自の支援策決定	重田・高橋・清水
4月22日	アンケート①の結果より、貸与申請書作成、PCを所有していない学生に学部PC貸与希望について個別連絡と貸与を開始	清水
4月27日	支援ニーズ把握のための学生有志との第2回意見交換会開催（Zoom会議）	重田・高橋・清水・松金・栗原
5月1日	学務委員会連絡用に、国際学部全学年の学生を登録したC-learningサイトを開設。アンケート結果公開、奨学金情報、マルチ商法注意喚起などの情報を逐次掲載、更新。	高橋・清水

年月日	対応内容	担当者・関係者
5月2日	「COVID-19による学生生活の影響と支援ニーズ調査」アンケート（アンケート②） 方法：学務委員会C-learningサイトのアンケート機能を使用 対象：国際学部全学生・研究生 回答者数：310名（65%）	高橋
5月12日	臨時学務委員会開催 アンケート②の結果判明した支援ニーズへの対応を協議、アンケート結果を学務教員と共有、コロナ後の社会におけるキャリア形成をテーマとした就職セミナーを6月30日にZoomを使って開催することを決定。 支援ニーズ把握のための学生有志との第2回意見交換会開催（Zoom会議）	重田・高橋・清水
5月13日	NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク代表理事の岩井俊宗とアンケート結果共有、学生支援体制の相談（Zoom会議）	高橋・清水
5月14日	アンケート②から判明した要支援学生への連絡を開始 退学・休学を検討している学生への個別連絡を開始 経済的困難を抱える学生へのアルバイト告知開始 方法：C-learningの協働板、連絡・相談機能を活用	重田・高橋・清水
5月15日	学務委員会によるアルバイト希望者のZoom面談実施	高橋・清水
5月 16-18日	アンケート②の集計結果分析作業	高橋・アルバイト学生
5月19日	アンケート②の結果を分析したうえで全学学務委員会に報告	重田・高橋
5月20日	4年生ガイダンスをZoom会議により実施 COVID-19対策・卒論・進学・留学・教育実習・就職について 参加者：134名（教職員を含む）	重田・松金・清水・栗原・菊池 （キャリア教育・就職支援センター）・上原
5月21日	定例学務委員会開催 指導教員による学生への個別連絡等を協議 学生による支援団体connectとの連絡相談体制の開始	重田・高橋・清水